

1章 正の数・負の数

重要語句編

(教科書p35まで)

実際に声に出して取り組んでみよう。

授業が始まったとき、「なんじゃその言葉は・・・」となるとそこで思考が止まってしまいます。準備をして授業に臨みましょう。

また、重要度を右上に記しています。重要度が高いほど授業でよく使ったり大切な言葉なので押さえておきましょう。

教科書p16

0より大きい数を(**正**)の数という。

0より小さい数を(**負**)の数という。

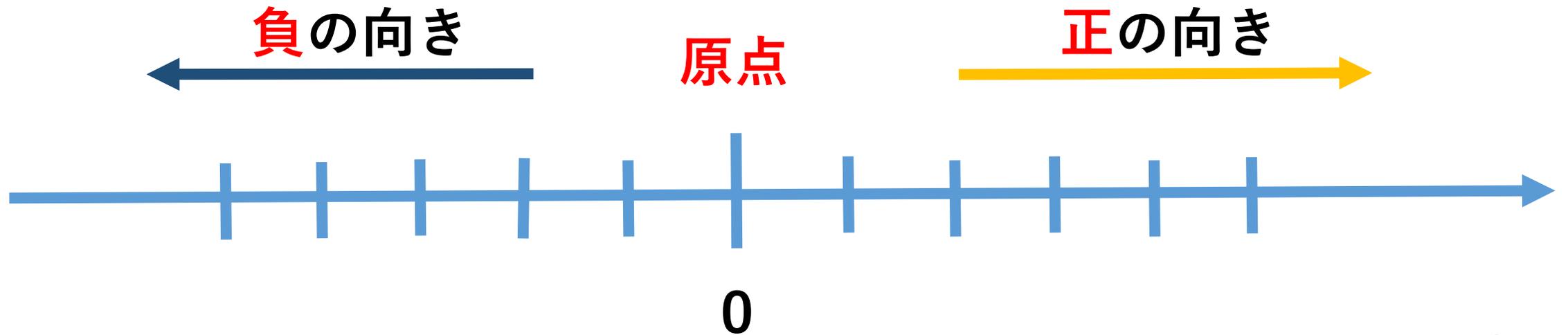
正の整数を(**自然数**)という。

○「かず」と「すう」の違い

「かず」は1, 2, ...などのように数えられるものをあつかうときに多く使われています。いっぽう「すう」には整数, 小数, 分数なども含まれています。実は, 「すう」には皆さんがまだ学習していない〇〇数がまだあります。中学校で新しい「すう」に出会うのが楽しみですね。

教科書p17

数直線で、0に対応する点を(**原点**)といい、
数直線の右の向きを(**正**)の向き、
左の向きを(**負**)の向きという。



教科書p19

数直線上で、ある数に対応する点と原点との距離を、その数の(**絶対値**)という。

使い方 「+4の**絶対値**は4で、-8の**絶対値**は8
です。」

「**絶対値**が5である数を考えてみよう」 など

教科書p23

たし算のことを(**加法**)という。

その結果を(**和**)という。

和は小学4年生で
学習しましたね。

使い方 「**加法**の交換法則・結合法則について成り立つか
確認しよう」

「2つの整数の**和**について考えよう。」など

教科書p27

ひき算のことを(**減法**)という。

その結果を(**差**)という。

差も小学4年生
で学習しましたね。

使い方 「**減法**を加法に直して計算してみよう。」

「0からある数字をひいた**差**は・・・」

教科書p31

加法を忘れた人は4ページへ

加法の式 $(+2) + (-5) + (+4)$ で、
加法の記号 $+$ で結ばれた $+2$, -5 , $+4$ を、
この式の(**項**)という。

また, $+2$, $+4$ を(**正の項**)という。
 -5 を(**負の項**)という。

使い方

「加法の式では項だけを並べて書くことができる」

重要語句編おわり😊
次は重要な考え方編です。